※発表言語でのタイトルMaharaを使ったe-ポートフォリオの効果：

質的データをもとにして

※代替タイトルEffects of ePortfolio Using Mahara: Analyzing the Qualitative Data

関西　花子(三田大学)

今出川　太郎(木屋町大学 大学院生)

Smith, Tom（Higashinada University）※英語名はこのように表記してください。

キーワード： Mahara，e-ポートフォリオ，LMS ※キーワードを３つ程度記載してください。

1. はじめに※原稿はA4判1頁に収まるように作成してください。

学習者の自律を促すためのメタ認知活動のひとつとしてポートフォリオは広く利用されているが，その有効性については，まだ十分に検証がおこなわれていない（Gu & Griffiths, 1996, p. 14）。そこで本研究では，Maharaを利用したe-ポートフォリオを構築し，その効果を検証した。

2. 参加者と手順

参加者は，兵庫県三田市の大学生100名であった。彼らの英語能力により，上級クラスと中級クラスに分割して指導を実施した（表１）。参加者は，選択必修で英語の科目を１年間履修しており，本研究には，１年間参加した。※倫理的配慮を十分に行ってください。

 表1.

参加者の内訳※A4判1頁に収めていただく必要がありますので、大きな図や表を入れるのは避けてください。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|   | 男性 | 女性 | 計 |
| 上級 | 24 | 23 | 47 |
| 中級 | 25 | 28 | 53 |

3. Maharaサイトの開発

本研究の実施にあたり，Moodleサイトを独自に開発した。開発には，木村（1998）などの取り組みを参照した。

4. 結果と考察

分析の結果，Moodleサイトでの協同学習の有効性が示唆された。これは，Grenfell & Macaro (2007)らの結果を支持するものであり，今後の追証が待たれる。※研究発表や実践報告の発表区分にかかわらず，結果は必ず記入し、「結果は発表時に提示する」という記述は避けてください。

参考文献※参考文献の記載方法は*APA*の最新版に準拠してください。

Grenfell, M., & Macaro, E. (2007). Claims and critiques. In A. Cohen & E. Macaro (Eds.), *Language learner strategies: Thirty years of research and practice* (pp. 9-28). Oxford: Oxford University Press.

Gu, P.-Y., & Griffiths, C. (1996). Robin Hood in SLA: What has the learner strategy research taught us? *Asian Journal of English Language Teaching*, *6*, 1-29.

木村健一（1998）. 英語指導の再評価: Moodleによる実証的研究 『LLA関西支部研究収録』7, 132-148.